

清代 乾隆朝の絵巻物「姑蘇繁華圖」の撮影をめぐって【サマリー】

重 森 貝 崙 ばい ろん

18世紀半ば、蘇州の画家・徐揚によって描かれた姑蘇繁華圖は、約12巻の及ぶ長大な絵巻物で、登場人物一万二千余、水上の船舶約四百隻、五十余りの橋梁と、好景気で賑わう蘇州の街の様子が活写されている。

この絵巻物の撮影は、13巻以上のレールを敷き、移動撮影によりその躍動感を表現した。また、描かれた建造物で現存するのは、蘇州の象徴・萬年橋などの橋梁と湖心亭であることがわかり、現地ロケを行って風景実写と絵画の両面構成を試みた。